

エコビレッジへの誘い



上：最新のエコビレッジは木板仕様に変わっている
左：20年前のレンガ造りのエコビレッジ



エコデザイナー
西條 正幸

1960年伊達市生まれ。
札幌を中心にナチュラルスタイルの店舗、
住宅の空間デザイナーとして活動。
自然素材にこだわった新築、
リフォームの設計、施工会社
「西條インテリアデザイン」代表取締役。
自然派生活提案「えこそた」店主。

オーストリアで最初に計画されたエコビレッジはウィーン郊外のゲルトナーホフにあり、20年前に建設されたエコ団地と、その隣に最新設備を取り入れて建設された新プロジェクトによるエコ団地の2つの顔がある。どちらも共通して南側に平屋の建物を建設し、北側には2〜4階の建物を建設して、太陽光がいきわたるよう配置されているのが特徴だ。

旧タイプは良好なコミュニティを築くコーポラティブ方式を採用。住人が計画段階から顔見知りになるため、入居時には親しい関係が出来上がっている。ここでは20年たった今でも、住人家族同士が一緒に旅行に出かけることも珍しくないということだ。緑に囲まれたコモンスペースは子供たちの遊び場となり、路地や集会場、菜園などが最近失われつつある近所づきあいや、大切なコミュニケーションをとるための場になっている。

年間降水量が500mmという雨の少ない地域のため、雨水利用は欠かせない。タンクで貯水利用したり、コンポストトイレも節水に役かっている。汚水の排水処理は、建物の裏手にある4つの池でアシなどの植物の力で段階的に浄化してから排出される。

駐車場は団地の外側にあり、車が団地の中に入れないようにしている。最初は不便と反対していた人たちも、緑が生い茂り、静かな環境が出来たことに大変満足しているという。省エネ・植物浄化・再生建材がテーマになっている。

一方、新しいエコビレッジのテーマは省エネ、パッシブ、ゼロエネルギーなど、よりエネルギーや二酸化炭素の排出削減に配慮されている。

南面の大きな開口部で太陽熱を蓄熱し、太陽熱コレクターやペレットボイラーを使った集中暖房を取り入れている。また通路の地下の空気ダクトとクールチューブをめぐらした地熱を利用した換気システムにより、冬はマイナス20℃の外気が室内に入る時には0℃に暖められ、夏は13℃に冷やされた空気を室内に供給できるのだ。これにより必要エネルギーは、通常の10〜20%の使用量で済む。

トータル的にはこのエコビレッジでは日常生活でのCO₂排出量がゼロになるように計画されていた。集会場・キッチン・厨房・ランドリースペースなどの共有スペースも明るくゆったりと中庭に面しているため、子供たちを遊ばせていても目が届くようになっていた。



1. 水生植物の葦が生える浄化池は風車ポンプで酸素を供給する



2. キッチン厨房



3. 緑の小路が団地内を縦断している
4. 太陽のふりそぐ通路は雨の日の子供たちの遊び場になる



5. 集会場



噴火湾と市内



有珠山が見える



北の湘南「伊達市」館山の高台に位置し、噴火湾を望む眺望と生活環境の整った1082坪の土地が建設地です。土地は4～6世帯がそれぞれの個人所有地と共同所有地のコミュニティスペースに分けて、住人が建設組合を結成して、共同購入します。

建物を建てる約300坪の建設地と菜園やコンスペースの緑地約780坪に区分して土地を所有します。地球環境と人の健康に負荷をかけず、地域の自然素材を生かした、環境にもやさしい暮らし。「五感を育む家で暮す」快適な住環境を実現し、北海道で初めてのエコビレッジの実現を目指します。ルールを守りながら、建物は全体の調和を考え、室内のインテリアは自由設計とし、住人がまちづくり、家づくりに積極的に参加するコーポラティブ方式を採用します。

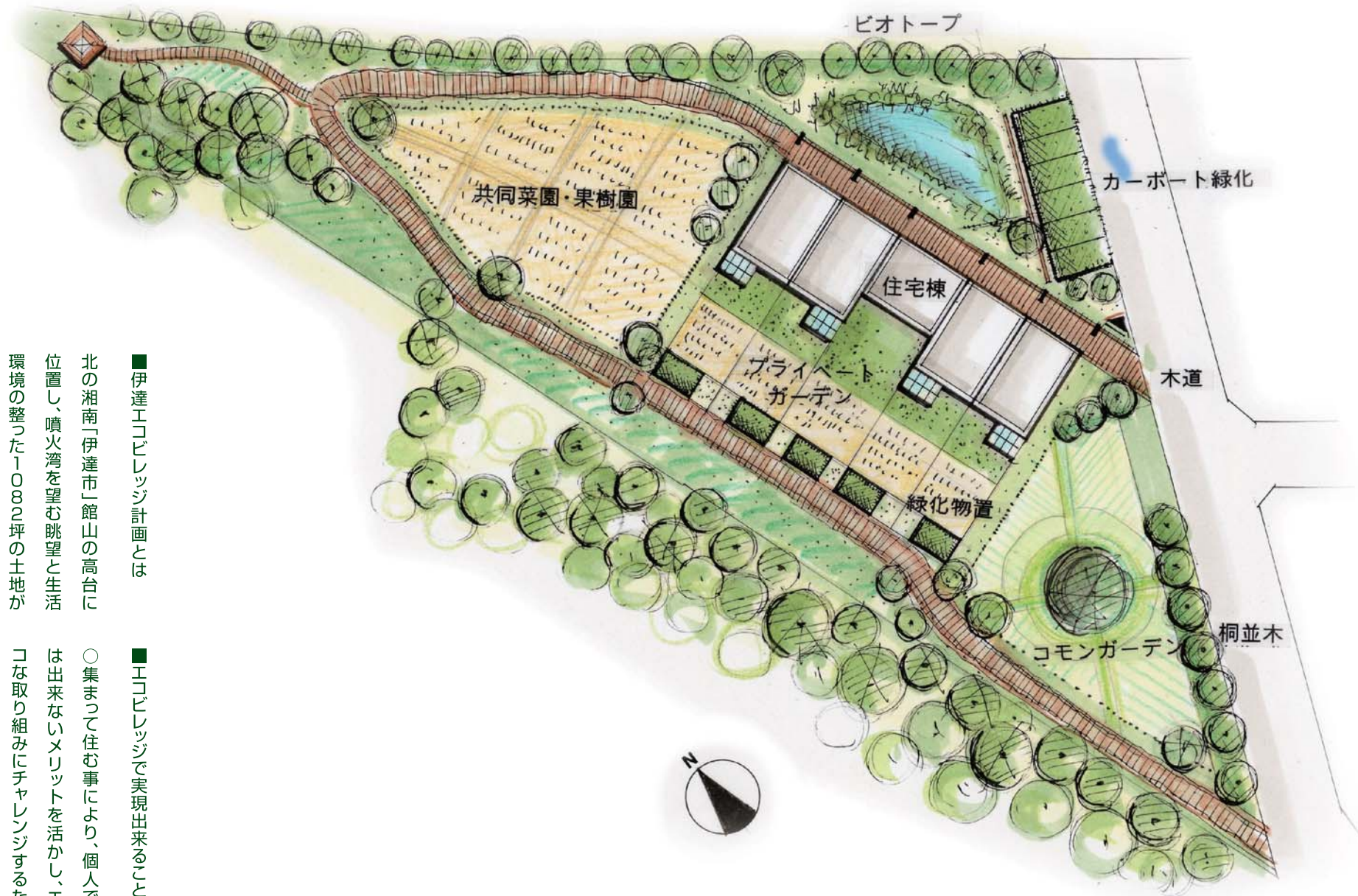
■伊達エコビレッジ計画とは

北の湘南「伊達市」館山の高台に位置し、噴火湾を望む眺望と生活環境の整った1082坪の土地が建設地です。土地は4～6世帯がそれぞれの個人所有地と共同所有地のコミュニティスペースに分けて、住人が建設組合を結成して、共同購入します。

■エコビレッジで実現出来ること

- 集まって住む事により、個人では出来ないメリットを活かし、エコな取り組みにチャレンジするための予算を確保する。
- それぞれのプライバシーを尊重しながら、小さな森の緑や有機菜園などのコミュニティ空間を共有する。
- 太陽熱利用や、雨水を貯水し、家庭菜園や散水に利用。壁面や屋根の緑化など緑と暮らす工夫をする。
- 地材地消の家づくりを継承し、北海道と伊達の山の木や地域の資源を活用した地域に根ざした家づくりを実践する。
- 地球環境にも配慮し温暖化対策として、地域の木質ペレットを燃料にした暖房給湯システムを取り入れる。（伊達市内の森林組合が木質ペレット燃料を製造）

※詳しい概要はホームページにて公開しています。



「北海道ではじめての
エコビレッジを目指す」

集まって
住む + 環境と健康に
優しい家 = エコビレッジ

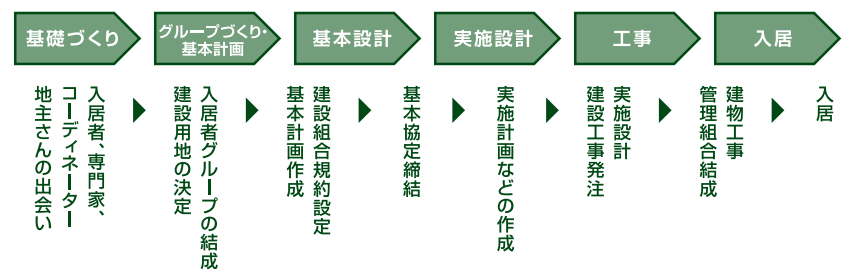
日本でのエコビレッジの動きはといえば、行政主導の環境共生団地と、ごくわずかなが実例がある。主に首都圏に集中しているが、僕の知るところでプロジェクト。実際にはもう少しあるかもしれないが…。どれもコーポラティブ方式を採用し、自然素材などの健康建材と建物の緑化や菜園空間など、緑と暮らすスタイルを積極的に取り入れた計画になっている。

僕達が北海道にもエコビレッジを実現しようと、市民グループ「エコビレッジ実行委員会」を立ち上げたのは2000年のことです。その後、札幌市藻岩地区でのエコビレッジ構想や、エコロジ建築の普及活動として、北海道エコロジ住宅学校で講座を開催してきました。そして今年、新たなチャレンジとして、北海道のローカル都市でのエコビレッジ構想を企画しました。

エコビレッジは地球環境と住む人の健康に対するリスクを軽減しながら、五感で感じる気持ち良さを体感できるエコハウスと、安全な野菜作りや住人のコミュニケーションを図れるコモン空間を持つ屋外環境を併せ持ち、緑あふれる理想の住環境を目指すものです。

コーポラティブ方式とは

「コーポラティブ住宅」とは、住まいを求める人たちが集まってグループをつくり、コーディネーターや建築家の協力を受けながら土地を取得し、住宅を建設していく方法によってつくられる住まいのことです。本州を始めとして日本の各地では、すでに5,000戸を超える住宅がこの方法によって生まれているのです。



Ecology House

環境と健康を考えたエコロジー建築



自然素材で新築・リフォーム
エ/コ/ロ/ジ-/建/築/エ/房

有限会社 西条インテリアデザイン

本社 / 札幌市北区百合が原4丁目8-1
tel. 011-774-8599 fax. 011-774-8581

伊達支店 / 伊達市舟岡町50-28
tel. 0142-22-0138 fax. 0142-22-0139

ホームページ <http://www.saijo-d.com>